のり養殖通報第４報

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議　　平成 23 年 11 月 6 日発行

[気象]気温は平年以下に低下。今後は冬型長続きせず。

○ 気温は 10 月下旬に入って高め基調で上下変動が大きい傾向が続いていた。10 月 25 日頃からは冬型の気圧配置の日が増え平年並み～平年以下に低下している（図 1）。

○ 気象予報によると，今後は周期的に天候が変化し冬型の気圧配置は長続きしないと予想されている。

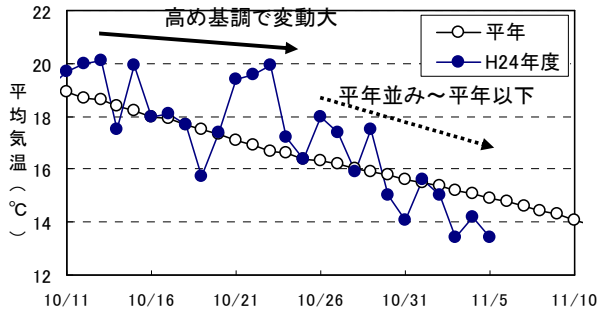

図1　日平均気温　平年との比較（千葉測候所）

[海況]水温は一段階降下。栄養塩類は十分

○ 新富津のり漁場における観測値では，10 月下旬に入って 20℃台で停滞していた水温は 10 月終わりになって降下を始め，現在は 18℃台で経過している（図 2）。

○ 11 月 5 日に実施した東京湾の観測結果では，表層水温はほぼ全域 18℃台に低下。内湾中央部の底層水温もほぼ 19℃台に低下し表層と底層の水温差は縮小した。植物プランクトンは小型の珪藻類がやや増加してきたが透明度は良好。栄養塩は全域でほぼ十分な量が含まれている（右下表）。

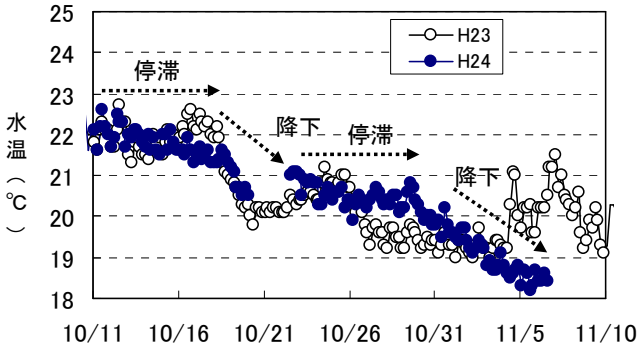

図2　昨年と今年の水温経過（新富津観測ブイ）

[今後の見込みと留意点]　漁場全体の伸長状況好転まであと一歩

○ 各地区の育苗は大きな問題なく終了し現在は生産に向けた網の展開中。

○ 今後は暖冬傾向で水温の降下が鈍る可能性が高く，漁場全体の伸長状況好転はもう少し先に。当面は良い場所を有効に活用。

○ 漁場によっては魚類（アイゴ）による食害が発生している模様。アイゴは藻類を好んで摂餌し，磯焼けの原因種として知られている。和歌山水試の試験結果では，高水温時に摂餌量が多く 20℃以下では摂餌量が激減した。水温低下とともに食害は終息していく見込み。

表 1　水質観測結果（11/5）

	水温	塩分	pH	透明度	窒素*	リン**
船橋	17.6	31.6	8.2	4.2	507	51
盤洲 B ブイ	18.8	31.9	8.2	5.5	404	46
盤洲 A ブイ	18.3	32.2	8.2	6.5	406	46
富津ベタ	18.7	32.1	8.3	6.0	354	34
2 海ほ下	18.6	32.7	8.2	7.5	304	34
大貫沖	18.9	33.3	8.2	6.5	232	28
湊沖	18.6	33.3	8.3.	6.5	164	19

*溶存無機態窒素（μg/l）、**リン酸態リン（μg/l）

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロードできます。
次回は 11 月 20 日頃発行します。